

探討生成 AI 輔助文學研究的可能性： 以村上春樹的《第一人稱單數》為例

葉菱

淡江大學日本語文學系副教授

摘要

生成 AI 產生的內容已經被廣泛應用於許多領域。至今，村上春樹的作品從多種視角進行研究。因此，本論文以村上春樹的《第一人稱單數》中收錄的「養樂多燕子詩集」作為具體的研究對象，探討生成 AI 成為文學研究的輔助工具的可能性。

本論文中實際使用的生成 AI 工具是裝載了 GPT-4 的「淡小虎」和 Microsoft Edge 的 Copilot。通過生成 AI 的分析，「記憶」這個詞的特殊性被揭示出來。接著，將生成 AI 的分析結果應用於文本分析，得出「養樂多燕子詩集」的新解讀。「父親」是超越現實與虛構界限的關鍵詞，同時也是「我」的「自我認識」的重要元素。

基於文學研究者的判斷和主導下使用的話，生成 AI 能夠擔任文學研究的輔助角色。

關鍵詞：生成 AI、文學研究、輔助、村上春樹、《第一人稱單數》

受理日期：2024 年 03 月 10 日

通過日期：2024 年 05 月 24 日

DOI：10.29758/TWRYJYSB.202406_(42).0012

A Study on the Potential of Generative AI Assisting in Literary Research : Using Haruki Murakami's "First Person Singular" as an Example

Yeh, Ling

Associate Professor, Department of Japanese, Tamkang University

Abstract

The content generated by AI has been widely applied in many fields. To date, the works of Haruki Murakami have been studied from various perspectives. Therefore, this paper takes the "The Yakult Swallows Poetry Collection" included in Haruki Murakami's "First Person Singular" as a specific research object, exploring the possibility of generative AI becoming an auxiliary tool for literary research.

The generative AI tools actually used in this paper are "Dan Xiaohu" loaded with GPT-4 and Microsoft Edge's Copilot. Through the analysis of generative AI, the uniqueness of the word "memory" is revealed. Then, the results of the generative AI analysis are applied to text analysis, resulting in a new interpretation of the "The Yakult Swallows Poetry Collection". "Father" is a keyword that transcends the boundaries of reality and fiction, and is also an important element of "I"'s "self-recognition".

If used under the judgment and leadership of literary researchers, generative AI can play an auxiliary role in literary research.

Keywords: Generative AI, Literary Research, Assisting, Haruki Murakami, "First Person Singular"

生成 AI が文学研究の補助になる可能性の一考察 —村上春樹『一人称単数』を例にして—

葉凌

淡江大学日本語文学科准教授

要旨

生成 AI が生成したコンテンツは、既に多くの分野に活用されている。現在まで村上春樹の作品に対する研究は多様な視点からアプローチされている。そのため、本稿では、村上春樹の『一人称単数』に収録された「ヤクルト・スワローズ詩集」を具体的な研究対象にし、生成 AI が文学研究の補助ツールになる可能性を探った。

実際に使用した生成 AI ツールは、GPT-4 を搭載した「淡小虎」と Microsoft Edge の Copilot である。生成 AI の分析を通して、「記憶」という言葉の使用における特殊性は現前された。そして、生成 AI の分析結果を取り入れて、「ヤクルト・スワローズ詩集」を考察した結果として、「父親」は現実と虚構との境界を越えるキーワードであると同時に、「僕」の「自己認識」の構築に重要な要素でもあるという新たな解釈が導かれた。

文学研究者の判断、主導に基づく生成 AI の使用は、文学研究の補助的な役割を果たすことが可能だと言える。

キーワード：生成 AI、文学研究、補助、村上春樹、『一人称単数』

生成 AI が文学研究の補助になる可能性の一考察 —村上春樹『一人称単数』を例にして—

葉凌

淡江大学日本語文学科准教授

1. はじめに

IBM の説明によると、生成 AI (Generative AI) は「トレーニングされたデータに基づいて高品質なテキストや画像、その他のコンテンツを生成することができるディープラーニング AI モデル」¹と定義されている。自然言語処理技術の進歩によって、専門的なプログラミングのソースコードに関する知識のない使用者はプロンプト（指示文）を入力すれば、文章、画像、動画、楽曲などのコンテンツが自動的に生成する。

2024 年現在、生成 AI が生成したコンテンツは、既にビジネスシーンにおいて活用されている。例えば、企業のホームページで「文章生成 AI を活用すれば、商品・サービスのセールスメールや Web 広告の文言など、顧客向けの文章が簡単に作れます」²、「生成 AI は、ユーザー行動の分析から予測、そして最適なコミュニケーション策の提案まで、マーケティング活動を全面的に支援します」³と紹介されるように、生成 AI が生成した文章は顧客を創造するキャッチコピー、ビジネスパートナーへの提案など実際のビジネスシーンにおいて使用されている。

一方、教育現場での応用について、日本文部科学省は「生成 AI を利活用することが有効と想定される場面」として次の活用例を提案

¹ IBM ソリューションブログ「生成 AI (ジェネレーティブ AI) とは」(2024 年 3 月 1 日閲覧) <https://www.ibm.com/blogs/solutions/jp-ja/what-is-generative-ai/>

² 創業手帳株式会社「将来を見据えて生成 AI への理解を深めよう！」(2024 年 3 月 1 日閲覧) <https://sogyotecho.jp/generation-ai/>

³ NOVEL INC.「生成 AI を企業で活用した 4 つの事例：競争の優位性を獲得するには」(2024 年 3 月 1 日閲覧) <https://n-v-l.co/blog/four-examples-of-corporate-use-generative-ai>

している。

例えば、ブレインストーミング、論点の洗い出し、情報収集、文章校正、翻訳やプログラミングの補助等の学生による主体的な学びの補助・支援などが考えられる。⁴

大学の教育現場において、「学生による主体的な学び」という前提で、生成 AI を「学びの補助・支援」として活用することが想定されている。提案された活用例の中、「論点の洗い出し」に注目したい。短時間で大量のデータから関連性の高い情報や意見を抽出できるという AI の特徴から見ると、人間が見落とす可能性のある論点を提示することは十分に考えられる。

実際、大阪学院大学・大阪学院大学短期大学部の「2023年07月19日 重要なお知らせ」では、「ブレインストーミングや論点の洗い出し」について、生成 AI が「正しく活用すれば、視野を広げ、思考や行動を向上させることに有効」⁵なアイテムとされている。つまり、生成 AI は学生の学習を多方面から支援し、学生の学習体験を向上することができるものと認められている。

以上のように、生成 AI が出力した文章はビジネスシーンに活用されている一方、人間の思考を補完し、焦点を絞る論点を提供するという教育現場での応用も想定されている。確かに、文学研究において、分析・考察結果は研究者の経験や先行研究に影響されるくらいがあることは否定できない。生成 AI の「ブレインストーミング・論点の洗い出し」という特性は、文学研究に新しい観点の提供や主張の裏付けなどのサポートをすることが十分に考えられる。しかし、生成 AI が文学テキストをどれほど解釈、分析できるか。その結果を

⁴ 文部科学省「大学・高専における生成 AI の教学面の取扱いについて(周知)」(2024年3月1日閲覧) https://www.mext.go.jp/content/20230714-mxt_senmon01-000030762_1.pdf

⁵ 大阪学院大学・大阪学院大学短期大学部「ChatGPTなどの生成 AI の利用について(在学生の皆さんへ)」(2024年3月1日閲覧) <https://www.ogu.ac.jp/news/2023/07/chat-gpt.html>

どの程度信頼できるか。既存の文学理論や観点とどのように統合するか。これらは、生成 AI の文学研究での応用において、議論すべき問題の一部だと思われる。本稿では、村上春樹の『一人称単数』（2020年・文藝春秋）を対象にして、生成 AI が文学研究の補助ツールになる可能性を探る。

2. 生成 AI の文章解析に関する諸研究

鈴木・宇都（2023）は、読解問題の自動生成について「7割以上の問題が流暢な文法で生成されており、約9割の問題が適切に読解対象文の内容を反映していることがわかる」⁶という考察結果を述べている。これは、生成 AI は読解対象としての文章を理解し、それに基づく内容を生成する能力があることを証明している。

広瀬・白松・奥原（2023）は、学習者が書いた振り返りへのアドバイスの自動生成について、「教員の手動作文と同程度に類似した内容が生成できていた可能性を示すことができた。しかし、失敗例が見られることから安定した結果は得られていない」⁷と論じている。教員と同程度の内容が生成したのは、生成 AI が振り返り（学生が書いた文章）の特徴に合わせる内容を生成する能力があることを示している。

以上の先行研究が示したように、生成 AI は人間と同じぐらいの程度に文章の内容を解析し、その特徴を捉えることができる。そして、生成した内容は論理的で文章の核心を反映するものであることが分かる。ただし、生成した内容は必ずしも安定していないという問題点に留意すべきである。

尾崎・中川・内藤・井之上・山口（2023）は、批判的思考力が求められる「反論」の生成について、「生成反論では高い精度で理由が

⁶ 鈴木彩香・宇都雅輝（2023）「深層学習と項目反応理論を用いた難易度調節可能な読解問題自動生成手法」『人工知能学会全国大会論文集 JSAI2023』人工知能学会 1R5-OS-10b-04 p.4

⁷ 広瀬伸行・白松俊・奥原俊（2023）「学習者の振り返りと計画を支援するアドバイスの GPT-3 による自動生成」『人工知能学会全国大会論文集 JSAI2023』人工知能学会 1N4-GS-10-02 p.3

記述され、論理性の高い文章であると評価された。(中略) 議題に関わらず一定品質の反論を生成できる可能性が高いことがわかった」⁸と指摘している。インターネットからデータを収集する生成 AI は、多様な議題に対応できる能力や論理的に反論を構築する能力を示している。既存な観点を幅広く解釈する可能性は示唆されている。

増田・中川・星野(2023)は、生成 AI が公認会計士の資格試験に合格する可能性について、「GPT-3.5 では合格点を大きく下回る結果となったが、GPT-4 では受験者平均点を大きく上回り、第一回では合格点まであと3点、第二回でもあと8点のところ逼迫の結果となった」⁹と説明している。専門的な領域において、生成 AI の処理能力が人間を超える可能性は表れている。

上記の先行研究が示したように、生成 AI は従来の研究にない視点の提供、異なる立場からの反論を生成する可能性は大いにありと考えられる。ビッグデータによる網羅的な視点を有する生成 AI は、多様な側面から議題にアプローチして、文学研究における解釈の幅を広げる可能性を示している。

以上をまとめてみると、生成 AI は読解対象文の内容を適切に解析し、それを基に論理性の高い文章を生成できることが分かる。文章解析では、生成 AI はテキストの文法、文脈、意味などを把握すると考えられる。文章出力では、教員の作文と同程度の文章を生成できるということは、生成 AI の信憑性を示している。

3. 生成 AI による文学テキスト分析

3.1 使用する生成 AI ツール

本稿では、淡江大学が開発した「淡小虎」と Microsoft Edge の Copilot を使用して、生成 AI が文学研究の補助になる可能性を考察

⁸ 尾崎大晟・中川智皓・内藤昭一・井之上直也・山口健史(2023)「大規模言語モデルが生成した反論文の品質評価」『人工知能学会全国大会論文集 JSAI2023』人工知能学会 4Xin1-11 p.4

⁹ 増田樹・中川慧・星野崇宏(2023)「ChatGPT は公認会計士試験を突破できるか? : 短答式試験監査論への挑戦」『人工知能学会第二種研究会資料 2023 (FIN-031)』人工知能学会 p.86

することにした。

図 1 が示したように、「淡小虎」は Azure OpenAI をベースにして開発された生成 AI ツールである。Microsoft の説明によると、Azure OpenAI Service は「GPT-4 と GPT-3.5-Turbo モデルシリーズ」を提供するサービスで、GPT-4 と GPT-3.5-Turbo による「コンテンツの生成、要約、画像の解釈、セマンティック検索、自然言語からコードへの翻訳など」¹⁰の機能を利用することが可能である。

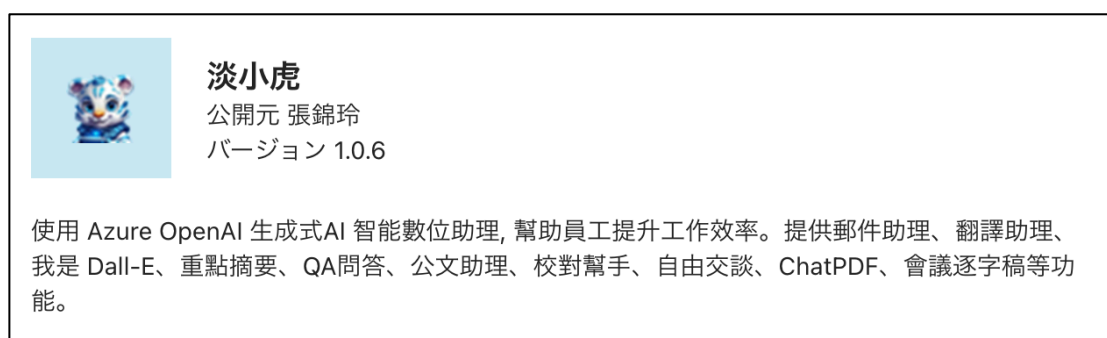


図 1 「淡小虎」の説明文

一方、Microsoft Edge の Copilot は、Microsoft が開発したウェブブラウザ「Edge」に組み込まれた AI ツールである。図 2 のように、「OpenAI の「GPT-4」をベースに採用した」¹¹ため、「作成」という機能を使うことでプロンプトに応じて文章を生成することが可能である。

前節で引用した、増田・中川・星野（2023）によると、GPT-4 の機能は GPT-3.5 を大きく上回るものである。文学テキストを分析する際に、教員と同等の文章解析力が必要だと予想されるため、GPT-4 を搭載している「淡小虎」と Microsoft Copilot にしたのである。

¹⁰ Microsoft 「Azure OpenAI Service とは」（2024 年 3 月 1 日閲覧）
<https://learn.microsoft.com/ja-jp/azure/ai-services/openai/overview>

¹¹ 週刊アスキー 「GPT-4 搭載したマイクロソフト Edge 「Copilot」の使い方」（2024 年 3 月 1 日閲覧）
<https://weekly.ascii.jp/elem/000/004/134/4134981/>

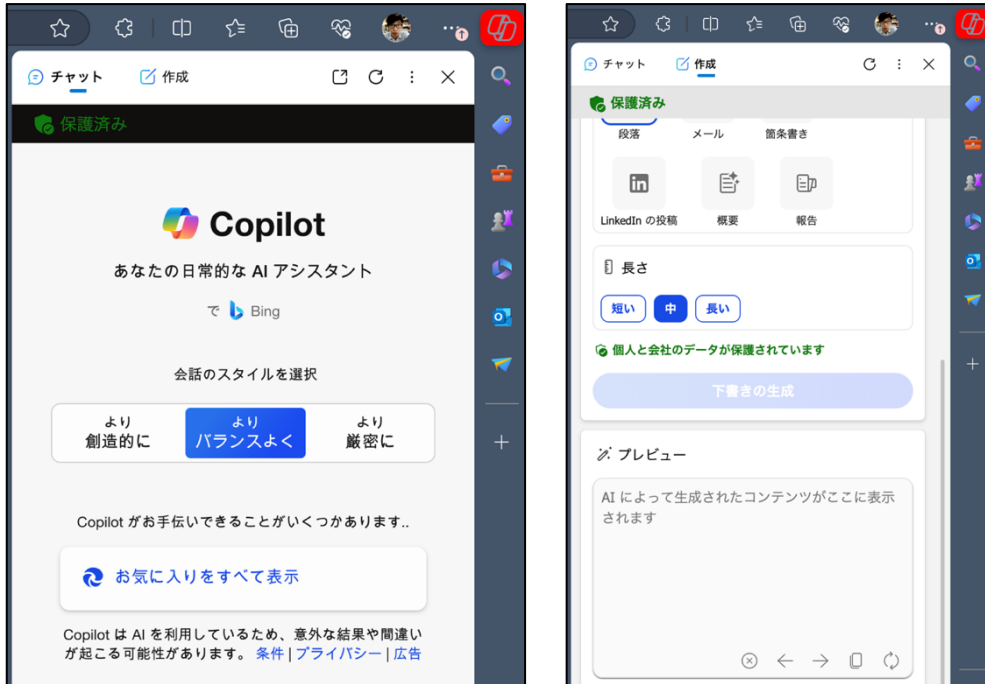


図 2 Microsoft Edge の Copilot

3.2 分析するテキスト

本稿では、具体的に村上春樹の『一人称単数』に収録された「ヤクルト・スワローズ詩集」を分析対象にした。2020年に上梓された『一人称単数』は、八つの短編を収録した短編小説集である。「八つの短編は、それぞれ意識的・意図的に作家村上春樹の事実に戦略的に重ねられて一見私小説風に仕立てあげられています」¹²と論じられているように、八つの短編には著者・村上春樹を想起させる要素が組み立てられているという共通項が見受けられる。一方、葉(2022)が計量テキスト分析ツール「KH Coder」を使って『一人称単数』を分析した結果は、以下の通りである

計量分析の結果が示したように、「ヤクルト・スワローズ詩集」は他の七つの短編との関係性は強くないことが分かる。ま

¹² 田中実(2021)「無意識に眠る罪悪感を原点にした三つの物語—〈第三項〉論で読む村上春樹の『猫を棄てる 父親について語るとき』と『一人称単数』、あまんきみこの童話『あるひあるとき』—」『都留文科大学大学院紀要』(25)都留文科大学 p.12

た、他の七つの短編とは違って「村上春樹」を明記したように、「ヤクルト・スワローズ詩集」は『一人称単数』において異質の一編として浮上していると考えられる。¹³

KH Coder は、入力されたテキストの全ての語彙を解析することによって、語彙と語彙との関係性を示すツールである。各短編を「外部変数」と設定すると、各短編における関係性の高い語彙が示される。他の七つの短編と関係性の強い語彙が見当たらない「ヤクルト・スワローズ詩集」は、異質の一編として浮上している。

計量テキスト分析の特徴として、単語の間に存在する相互関係は現れる。一方、作中に出現回数の少ない単語が適用範囲から外される傾向がある。そのため、長編作品、或いは複数の短編作品の比較に適切なツールだと思われる。

第二世代の AI 技術をベースにした計量テキスト分析とは異なって、生成 AI はディープラーニングで訓練が行われた大規模言語モデルによって構築されたツールである。そのため、比較対象を設けなくても文字数の少ない短編小説を解析することが可能だと予想される。本稿では、「淡小虎」と Microsoft Copilot を使って「ヤクルト・スワローズ詩集」の異質性を探ることを通して、生成 AI が文学研究の補助になる可能性を考察する。

4. 生成 AI の分析結果

『一人称単数』の特徴の一つとして、「記憶」という言葉の使用が挙げられる。同じく一人称語りで自分の過去を回想する物語である『風の歌を聴け』で「記憶」の使用は 2 回である。それに対して、『一人称単数』は 49 回である。そのため、「ヤクルト・スワローズ詩集」で言及された「記憶」を中心に分析することにした。

「淡小虎」には「PDF 聊聊」という、PDF にした文章の内容を分

¹³ 葉菱 (2022) 「村上春樹『一人称単数』における語り手の「記憶」—各短編のつながりを中心に—」『台湾日語教育學報』(38) 台湾日語教育学会 p.295

析する機能がある¹⁴。「PDF 聊聊」を使った分析の手順は次の通りである。まず、「ヤクルト・スワローズ詩集」を PDF データにして、「淡小虎」にアップロードする。次に、「この文章における「記憶」に対する描写を説明してください」というプロンプトを入力する。こうして、「淡小虎」が生成した内容は次の通りである。

本文中における「記憶」に対する描写は、主に過去の体験や感情を回想する形で表現されています。特に、高校生の王貞治を見た記憶や、母親の記憶があやふやになり、一人暮らしが覚束なくなってきたときの記憶などが具体的に描かれています。また、記憶は「望遠鏡を逆からのぞいているような不思議に透きとおった記憶」と形容され、遠くて近い存在として描かれています。（下線は筆者によるもの、以下同じ）

「淡小虎」の説明によると、「ヤクルト・スワローズ詩集」において、「王貞治」、「母親」に関わる「記憶」は具体的に描写されている。作中では「記憶」という言葉が出現するのは次のような3箇所である。

例文① 母親の記憶が次第にあやふやになり、一人暮らしが覚束なくなってきたとき、僕は彼女の住まいを整理するために関西に帰った。(p.140)

例文② そういえば小学生の頃、この球場で、この外野席で高校生の王貞治を見たことがあった。
早稲田実業が優勝した春
彼はエースで四番打者だった。
望遠鏡を逆からのぞいているような

¹⁴ 「淡小虎」には、「自由交談」、「會議記録助理」、「PDF 聊聊」、「校對幫手」、「翻譯助理」、「郵件助理」、「重點摘要」、「我是 DALL-E」、「QA 問答」、「公文助理」という九つの機能が備わっている。

不思議に透きとおった記憶。 (p.147)

例文③ 時間はあくまで同じ時間だ。一分は一分であり、一時間は一時間だ。僕らはなんといっても、それを大事に扱わなくてはならない。時間とうまく折り合いをつけ、できるだけ素敵な記憶をあとに残すこと——それが何より重要になる。(p.148)

例文①のように、記憶があやふやになった母親は菓子箱に阪神タイガースの選手の写真がついているカードを大量に詰め込んでいる。例文②は、語り手の「僕」が甲子園球場で阪神・ヤクルト戦を観戦したあと書いた詩の一部である。例文①と例文②の共通点は、二つとも野球に関する「具体的な記憶」である。それに対して、「淡小虎」に言及されていない例文③は、語り手が「時間」に対する考え方を語る箇所である。

「最初にお断りしておきたいのだが、僕は野球が好きだ」(p.125)という一文から始まる「ヤクルト・スワローズ詩集」は、野球を中心に「僕という人間の簡潔な伝記みたい」(p.127)な作品である。そのため、作品の大半を占めているのは、野球に関わる回想である。それなら、野球に関連性のない例文③における「記憶」の使用は注目に値するものだと考えられる。

以上のように、「淡小虎」の解析を通して、「ヤクルト・スワローズ詩集」において、例文③の「記憶」の特殊性は現前されている。それで、筆者は例文③における「記憶」の使用に注目し、「淡小虎」と Microsoft Copilot に次のプロンプトを入力した。

あなたは文学研究の専門家です。次の#文章における「記憶」を分析してください。

#文章

時間はあくまで同じ時間だ。一分は一分であり、一時間は一時

間だ。僕らはなんといっても、それを大事に扱わなくてはならない。時間とうまく折り合いをつけ、できるだけ素敵な記憶をあとに残すこと——それが何より重要になる。

プロンプトにおいて、「文学研究の専門家」と役割を与えたのは、文学研究という範疇での分析結果を得るためである。そして、「#」という記号を入れたのは、分析対象文を明確に区切るためである。

「淡小虎」及び「Microsoft Copilot」が生成した回答は下記の表 1 の通りである。

表 1 生成 AI による例文③の分析結果

生成 AI	生成した内容
「淡小虎」	<p>この文章では、「記憶」は個々の経験や感情を保存し、それを後で再現する能力を指します。そして、<u>「素敵な記憶をあとに残すこと」は、時間を有意義に過ごすことの重要性</u>を示しています。</p> <p>「時間とうまく折り合いをつけ」という表現からは、時間との関係性、時間管理の重要性が示唆されています。時間は一定であり、その価値はどのように使うかによって決まると言えます。したがって、時間を有効に使い、<u>価値ある経験を通じて「素敵な記憶」</u>を作り出すことが強調されています。</p> <p>また、「それが何より重要になる」という表現からは、「記憶」が人生における重要な要素であることが示されています。これは、<u>記憶が個々の人生を形成し、自己認識を構築するための重要な要素</u>であるという考え方を反映しています。</p> <p>したがって、この文章における「記憶」の分析を通じて、時間の価値、経験の重要性、そして自己認</p>

	<u>識の形成というテーマが浮かび上がってきます。</u>
「Microsoft Copilot」	この文章は、時間と記憶の関係について語っています。時間は流れていくものであり、過去の出来事は記憶という形で残されます。しかし、記憶は不完全であり、変化する可能性があります。したがって、 <u>時間とうまく折り合いをつけるということは、自分の過去を受け入れて、現在の瞬間を大切にすること</u> です。 <u>素敵な記憶をあとに残すことは、自分の人生に意味や価値を与えること</u> です。この文章は、時間と記憶の間にある緊張や葛藤を表現しており、読者に自分の人生を振り返らせる効果があります。

「淡小虎」の説明には、時間と価値のある経験の重要性が強調されている。また、「記憶」を自己認識を構築するための要素と見做し、例文③には「自己認識の形成」というテーマが含まれていると分析されている。一方、「Microsoft Copilot」の説明には、自分の過去、現在の瞬間をキーワードにして、人生の意味や価値が提起されている。以上のように、生成 AI が多様な視点から例文③を解釈している。それに対して、葉（2022）の例文③に対する「時間とともに消えていく記憶を残す重要性が語られる」¹⁵という説明は表面的な解釈に止まっていると言える。

以上をまとめて言えば、生成 AI の分析を通して、「ヤクルト・スワローズ詩集」における「記憶」の使用は二種類に分けられることが分かる。一つは、「王貞治」、「母親」といった、「僕」の野球に関する「具体的な記憶」である。もう一つは、「自己認識の形成」、「人生の意味や価値」が代表する「僕」の人生観に関わる内容である。生成 AI の分析結果は作品の解釈の幅を広げたと言えよう。

一方、生成 AI による文学テキストの解析には限界が見受けられ

¹⁵ 葉 菱（2022）「村上春樹『一人称単数』における語り手の「記憶」—各短編のつながりを中心に—」『台湾日語教育學報』(38) 台湾日語教育学会 p.288

る。まずは、「淡小虎」による「記憶」に対する説明において、「主に過去の体験や感情を回想する形で表現されています」という一文がある。作品の冒頭では、語り手の「僕」が自分の人生を振り返って「簡潔な伝記」を語るという作品構造が示されている。「淡小虎」の説明は、「記憶」という解析対象のみならず、作品全体にも適用可能なものとなっている。つまり、「ヤクルト・スワローズ詩集」における「記憶」の使用特徴は、十分に解析されているとは思えない。

次は、例文③に対する「淡小虎」の分析結果である。「時間管理の重要性」、「時間は一定であり、その価値はどのように使うかによって決まる」などといった表現は、例文③で描かれる「記憶」の特性ではなく、一般論として読み取れる。

最後は、「Microsoft Copilot」による例文③の分析結果である。「読者に自分の人生を振り返らせる効果があります」という結論は、テキスト分析を超えて、読者反応についての解釈に踏み入れている。過度の解釈になってしまった可能性は否めない。

このように、生成 AI の分析結果の使用は、研究者の判断と主導に基づく必要があると考えられる。文学研究に生成 AI を導入する際は、研究者の文学テキストに対する理解が前提条件だと言える。

5. 分析結果の文学研究への応用

本節では、生成 AI の分析結果を取り入れて「ヤクルト・スワローズ詩集」の新たな読解を試みる。

『一人称単数』という題名が示したように、収録された八つ短編は全て一人称語りによって成立した作品である。語り手の連続性について沼野充義は以下のように説明している。

一貫した語り手である「僕」（ただし「クリーム」だけは「ぼく」というひらがな表記）は、（中略）村上春樹本人の特徴や伝記的事実を多分に備えており、遠い過去を回想しながら次第に

時代を下ってきた。¹⁶

沼野氏が指摘したように、『一人称単数』の語り手が語る回想には、著者の村上春樹を想起させる出来事が多分にある。一方、他の七つの短編とは違って、「ヤクルト・スワローズ詩集」では著者・村上春樹を思わせる要素を見かけるほか、「村上春樹」という固有名詞が出現している。

『風の歌を聴け』という作品で、それは「群像」の新人賞をとり、僕はそのときからとりあえず小説家と呼ばれるようになった。(中略)

『ヤクルト・スワローズ詩集』として刊行することにした。
(中略) 長編小説『羊をめぐる冒険』を書き上げる少し前(中略)簡素な造本、ナンバー入りの五百部、全部にきちんとサインペンで署名した。村上春樹、村上春樹、村上春樹……(pp.130-135)

引用文のように、『風の歌を聴け』、「群像新人賞」、『羊をめぐる冒険』といった固有名詞が挙げられているため、「村上春樹」と名乗る「ヤクルト・スワローズ詩集」の語り手である「僕」は、『一人称単数』の著者・村上春樹と読み取れる。しかも、全編を通して「記憶」という言葉が散見されるため、『一人称単数』は、著者・村上春樹が自分の過去を振り返る自伝的な作品だと思われる。

一方、作中作『ヤクルト・スワローズ詩集』について、「この『詩集』が純然たる虚構」¹⁷、「『ヤクルト・スワローズ詩集』は実在しないと考えられる『ヤクルト・スワローズ詩集』を出版したという、

¹⁶ 沼野充義(2021)「偶然の織り成す運命の物語—村上春樹『一人称単数』『猫を棄てる』における回想と虚構の交錯—」曾秋桂編『村上春樹研究叢書 TC008 村上春樹における運命』淡江大學出版中心 p.15

¹⁷ 沼野充義(2021)「偶然の織り成す運命の物語—村上春樹『一人称単数』『猫を棄てる』における回想と虚構の交錯—」曾秋桂編『村上春樹研究叢書 TC008 村上春樹における運命』淡江大學出版中心 p.39

架空の要素が混入されている」¹⁸と論じられているように、架空の要素が混入している「ヤクルト・スワローズ詩集」は虚構としての作品だと考えられる。そこで、語り手の「僕」が「村上春樹」と名乗るといふ設定に注目したい。

著者・村上春樹と父親との関係について、沼野充義は次のように述べている。

父との複雑な関係については、自伝的回想『猫を棄てる』により詳しく書かれているが、それとここの記述は完全に一致しており、この作品もまた自伝的なノンフィクションの要素が強いことは明らかだろう。¹⁹

前述したように、沼野氏は「ヤクルト・スワローズ詩集」を虚構のフィクションと認識する一方、父親との関係によって「ヤクルト・スワローズ詩集」の「自伝的なノンフィクションの要素」を強調している。このように、「村上春樹」という固有名詞の使用は、フィクションである「ヤクルト・スワローズ詩集」にノンフィクションの性格を与える働きをされると考えられる。さらに言えば、「村上春樹」という言葉は現実と虚構との境界を越えるキーワードだと見做されよう。

また、「ヤクルト・スワローズ詩集」は、「ヤクルト・スワローズのファン」(p.125)と自称する「僕」が語る「僕という人間の簡潔な伝記みないになるかもしれない」(p.127)という作品である。「僕」の野球に対する回想が大半を占めた中、「父親」は9回言及されている。

¹⁸ 山根明敏(2021)「村上春樹『一人称単数』と私小説との距離 —「クリーム」「ウィズ・ザ・ビートルズ」「ヤクルト・スワローズ詩集」「一人称単数」を読む」『Mukogawa Literary Review』(58) 武庫川女子大学 p.6

¹⁹ 沼野充義(2021)「偶然の織り成す運命の物語—村上春樹『一人称単数』『猫を棄てる』における回想と虚構の交錯—」曾秋桂編『村上春樹研究叢書 TC008 村上春樹における運命』淡江大學出版中心 p.14

表 2 「ヤクルト・スワローズ詩集」における「父親」への言及

通し 番号	例文
1	<u>父親</u> が亡くなったとき、僕は葬儀のあとで三人の従兄弟とさんざんビールを飲んだ。(p.135)
2 3	僕の <u>父親</u> は筋金入りの阪神タイガース・ファンだった。僕が子供の頃、阪神タイガースが負けると、 <u>父親</u> はいつもひどく不機嫌になった。(p.136)
4	だから阪神タイガースが負けた夜は、できるだけ <u>父親</u> の神経に障らないように心がけたものだ。(p.136)
5	ごく控えめに表現して、僕と <u>父親</u> との関係は、それほど友好的なものとは言えなかった。(中略)でももちろん素敵な思い出もある。(pp.136-137)
6	僕と <u>父親</u> は甲子園球場に二人でその試合を見に行った。(p.137)
7 8	「よかったなあ」と <u>父親</u> は僕に言った。半ばあきれたみたいに、半ば感服したみたいに。そういえば、僕が三十歳で小説家としてデビューしたとき、 <u>父親</u> はだいたい同じことを口にした。半ばあきれたみたいに、半ば感服したみたいに。(p.137)
9	「お父さんに聞いてくれたらわかると思うけど」 そう言われても困る。 <u>父親</u> はもう三年前に死んでいるのだから。(p.141)

通し番号 1 は、導入部のように父親を語る最初の一文である。そして、通し番号 9 は、母親との思い出で言及された父親である。この 2 箇所を除いて、亡くなった父親への具体的な言及は二種類に分けられる。一つは、筋金入りの阪神タイガース・ファンである父親に対する思い出（通し番号 2~4）である。もう一つは、父親と甲子

園球場で観戦する思い出（通し番号 6~8）である。そして、通し番号 5 のように、後者は「素敵な思い出」とされている。

前節で述べたように、「ヤクルト・スワローズ詩集」で「記憶」という言葉の使用は、「王貞治」、「母親」に関わる「具体的な記憶」のほか、例文③の「素敵な記憶」である。生成 AI の分析結果の通り、「素敵な記憶」を残すのは、時間を有意義にする重要なことである。また、それによって、「自己認識」は構築され「人生の意味や価値」は与えられる。このように、友好的な関係を築いていない父親との「素敵な思い出」を「記憶」に残すのは、「僕」にとって如何に重要なことだと容易に分かる。

彼が九十年に及ぶ人生に幕を下ろす直前まで、二十年以上にわたって、僕と父とはほとんどひとつことも口をきかなかった。

（中略）最後にささやかな和解のようなものはあったが、それは和解と呼ぶにはいささか遅すぎるものだった。（pp.136-137）

引用文から分かるように、「僕」と父親との関係は「友好的なものとは言えなかった」というより複雑で微妙なものである。二十年以上も交流のない状態が続いていても、父親との「素敵な記憶」を残すことで、現在の「僕」は形成されると考えられる。このように、「ヤクルト・スワローズ詩集」で「僕」が語る過去は、父親の影響で形成された「僕という人間」だと言える。

「三年前」に人生の終わりに近づく父親との和解は、遅すぎるものだったとはいえ、「僕」が困難な時間を乗り越えた象徴だと見做される。例文③の「時間はあくまで同じ時間だ。僕らはなんといっても、それを大事に扱わなくてはならない」とあるように、時間とうまく折り合いをつけた「僕」はこれからの時間＝未来を大事にすると言語する。

作品が「チームが勝つことを祈ろうではないか。そしてそれと同時に（密かに）、敗れることに備えようではないか」（p.149）という

一文で終わるように、未来のあらゆる可能性は言及される。これは、父親との「素敵な記憶」が「僕」に与えた「人生の意味や価値観」だと言えよう。

以上をまとめて言えば、「村上春樹」という固有名詞の使用は、作品の深層に潜む「父親」というテーマを浮かばせる。つまり、「僕」の「簡潔な伝記」である「ヤクルト・スワローズ詩集」には「父親」が欠かせない要素だと言えよう。そして、生成 AI の分析結果が示したように、父親との記憶は「僕」の自己認識の形成に重要な要素だと考えられる。「記憶」への言及を父親との「素敵な思い出」と結びつけると、「僕」の語りにおける未来への姿勢は明白にされている。

このように、「村上春樹」という固有名詞の使用と「父親」への言及に注目し、生成 AI が提示する「自己認識の形成」、「人生の意味や価値」を取り入れて考察を行なった。「父親」は現実と虚構との境界を越えるキーワードであると同時に、「僕」の「自己認識」の構築に重要な要素でもあるという新たな解釈が導かれた。

生成 AI による文学テキストの分析は、新たな視点を提供する可能性があると考えられる。「論点の洗い出し」として、生成 AI の分析結果は有用な参考資料となり得る。しかし、その使用には注意が必要である。生成 AI の分析結果には一般論を強調したり過度の解釈を生成したりする可能性があるため、先行研究と対比し、その妥当性を評価することは重要だと考えられる。

6. おわりに

本稿は、生成 AI を文学研究に応用する試みである。生成 AI の分析を通して、『一人称単数』に収録された「ヤクルト・スワローズ詩集」における「記憶」の使用の特殊性を見出した。先行研究、及びテキスト分析の結果に生成 AI の分析結果を取り入れることで、「父親」との「記憶」の重要性は現前される。「ヤクルト・スワローズ詩集」のこの新たな解釈は、生成 AI の補助によって可能とな

った。このように、文学研究者の判断、主導に基づく生成 AI の使用は、文学研究の補助的な役割を果たすことが可能だと言える。

生成 AI を文学研究に導入する際に、前提として研究者のテキストへの十分な理解が必要である。これはテキスト分析が解釈の基盤を形成するためである。生成 AI の使用は、概要から細部へという順番で質問するのが適切だと思われる。まずおおまかなテーマや構造を把握し、次に具体的な特定要素について探究する、という段階的なアプローチが、新たな発見に繋がる。最後に、先行研究との比較を通じて、生成 AI が提供する視点や解釈の妥当性を評価する必要がある。この比較により、既存の研究との関連性や相違点が明らかになる。

新たな視点の提供や、既存の解釈に対する反論の形成も期待される生成 AI の文学研究への導入は、文学研究者にとって有益なことだと言えよう。

< 付記 >

本論文は、2023 年 11 月 25 日に開催された「2023 年度台湾日本語教育研究国際学術シンポジウム」での口頭発表「生成 AI が文学研究の補助になる可能性—村上春樹『一人称単数』を例として—」を元に加筆・修正したものである。

テキスト

村上春樹 (2020) 『一人称単数』文藝春秋

参考文献

論文

尾崎大晟・中川智皓・内藤昭一・井之上直也・山口健史 (2023) 「大規模言語モデルが生成した反論文の品質評価」『人工知能学会全国大会論文集 JSAI2023』、東京、人工知能学会、4Xin1-11 pp.1-

- 鈴木彩香・宇都雅輝（2023）「深層学習と項目反応理論を用いた難易度調節可能な読解問題自動生成手法」『人工知能学会全国大会論文集 JSAI2023』、東京、人工知能学会、1R5-OS-10b-04 pp.1-4
- 田中実（2021）「無意識に眠る罪悪感を原点にした三つの物語—〈第三項〉論で読む村上春樹の『猫を棄てる 父親について語る時』と『一人称単数』、あまんきみこの童話『あるひあるとき』—」『都留文科大学大学院紀要』（25）、山梨、都留文科大学、pp.11-34
- 沼野充義（2021）「偶然の織り成す運命の物語—村上春樹『一人称単数』『猫を棄てる』における回想と虚構の交錯—」曾秋桂編『村上春樹研究叢書 TC008 村上春樹における運命』、台北、淡江大學出版中心、pp.1-39
- 広瀬伸行・白松俊・奥原俊（2023）「学習者の振り返りと計画を支援するアドバイスの GPT-3 による自動生成」『人工知能学会全国大会論文集 JSAI2023』、東京、人工知能学会、1N4-GS-10-02 pp.1-4
- 増田樹・中川慧・星野崇宏（2023）「ChatGPT は公認会計士試験を突破できるか？：短答式試験監査論への挑戦」『人工知能学会第二種研究会資料 2023 (FIN-031)』、東京、人工知能学会、pp.81-88
- 山根明敏（2021）「村上春樹『一人称単数』と私小説との距離 —「クリーム」「ウィズ・ザ・ビートルズ」「ヤクルト・スワローズ詩集」「一人称単数」を読む」『Mukogawa Literary Review』（58）、兵庫、武庫川女子大学、pp.1-14
- 葉凌（2022）「村上春樹『一人称単数』における語り手の「記憶」—各短編のつながりを中心に—」『台湾日語教育學報』（38）、台北、台湾日語教育学会、pp.278-303

インターネット資料

IBM ソリューションブログ「生成 AI（ジェネレーティブ AI）とは」
<https://www.ibm.com/blogs/solutions/jp-ja/what-is-generative-ai/>

(2024年3月1日閲覧)

Microsoft「Azure OpenAI Service とは」<https://learn.microsoft.com/ja-jp/azure/ai-services/openai/overview> (2024年3月1日閲覧)

NOVEL INC.「生成 AI を企業で活用した 4 つの事例：競争の優位性を獲得するには」<https://n-v-l.co/blog/four-examples-of-corporate-use-generative-ai> (2024年3月1日閲覧)

大阪学院大学・大阪学院大学短期大学部「ChatGPT などの生成 AI の利用について (在学生の皆さんへ)」<https://www.ogu.ac.jp/news/2023/07/chat-gpt.html> (2024年3月1日閲覧)

週刊アスキー「GPT-4 搭載したマイクロソフト Edge「Copilot」の使い方」<https://weekly.ascii.jp/elem/000/004/134/4134981/> (2024年3月1日閲覧)

創業手帳株式会社「将来を見据えて生成 AI への理解を深めよう！」
<https://sogyotech.jp/generation-ai/> (2024年3月1日閲覧)

文部科学省「大学・高専における生成 AI の教学面の取扱いについて (周知)」https://www.mext.go.jp/content/20230714-mxt_senmon01-000030762_1.pdf (2024年3月1日閲覧)